Data Intensive Astronomy に向けた取り組み

国立天文台 天文データセンター

大石 雅寿

アブストラクト

ALMA やすばる望遠鏡の新世代カメラ(HSC)は膨大な量の観測データを生み出す。世界でも数 100 ペタバイトを超える大量データを生み出すサーベイ計画や、テラビットを越えるデータフローを必要とする装置建設が進んでいる。講演では、天文学研究の新たな時代である「データセントリック」な天文学の構築に向けた取り組みをかいつまんでご紹介する。

講演者プロフィール

◆ 略歴

1985 年 3 月	東京大学大学院理学系研究科修了 理学博士
1987 年 11 月	富山大学理学部助手
1990 年 8 月	国立天文台電波天文学研究系助手
1998 年 4 月	国立天文台天文学データ解析計算センター助教授
2007 年 4 月	国立天文台天文データセンター准教授
2011 年 4 月	国立天文台天文データセンター長

◆ 研究分野、研究テーマ

電波天文学、星間化学、アストロバイオロジー、データベース天文学

◆ その他（所属学会、受賞暦、著書など）

・所属学会： 日本天文学会、国際天文学連合、日本データベース学会、
電子情報通信学会、生命の起原とその進化学会